

尾 漢

第16号

尾瀬の自然を守る会

尾瀬ヶ原分水問題

この夏、異状渴水という事態にあわてふためいた首都圈では、飲料用水を求めるべく尾瀬へと目をつけた。色々な問題をかかえている首都圏。その為に貴重な尾瀬を葬ろうとする陰謀が渦巻いている。

この取水工事が尾瀬沼の様相を変えた事実の大きさは、この事からも計り知る事ができるだろう。

岸辺近い湿原はもとより、いま枯死して立つてある針葉樹林の破壊は、どれほどの対価であつたらうか。この損害賠償の話は聞いたことはない。

半分は国有林だから賠償責任は問わなかつたのか。金の問題ではない。数百年、数千年無キズで營まれた自然の価値をどう計算できよう。

なぜ国立公園である尾瀬において、自然に逆らい沼尻川をせき止め、三平下にトンネル

だが、国立公園は国の無策のため、国立とは名ばかりのズタズタに引き裂かれた破壊公園となつてゐるのが現状である。こと尾瀬においても、まだそろ分水問題が騒がれ、利権屋どもが暗躍し、尾瀬水利対策期成同盟会（会長、笠原秋雄群馬県議会議長）という権力集団がうろついている。いまのところ、福島県と新潟県がこれに反対しているため、国も簡単ににgoサインは出しまいが、その反対理由は、水利権が主な理由であるため、

(長さ八五〇m) を堀ること
ができたのか。それは大正、
明治まで遡つて平野長蔵翁の
生涯にわたるたたかいを見な
ければ、その工事の犯罪性を
暴き出すことはできない。大
正年間には、現代の自然保護
派と開拓派の対決と同じよう
な対決が、この尾瀬を舞台に
繰り広げられたのである。

そのたたかいの最終結着と
して長蔵翁は、尾瀬の国立公
園化を望み、その運動に取り
組んだが、昭和五年八月この
世を去っている。(来年は没
後五十年である。なお、尾瀬
は昭和九年に国立公園の指定
を受た。)

すでに大正年間に水利権許可をとつてゐると主張する東電の歴史的言い分けに対し、これを充分に押え得る論拠になるか心配である。

尾瀬水分水を水利権だけで論じられてはたまらない。なぜ自然保護の観点に立つてこれを論じないのか。限られた生命の生きものだから人間はより普遍的なもの、永遠的なものを求めている。子を生み育てる本能にしても、その永遠性への希求につながつてゐる。ダム工事など剝離的なものである。百年もすれば土砂に埋

19mのダムを作り、尾瀬ヶ原に冠水しない程度の貯水池にして、10キロの地下トンネルで利根川支流の檜俣川に導水する計画だと言われている「はるかな尾瀬」（農業の日本社）が、工事だけでも大変な破壊である。そして既成事實ができれば、あとは積み上げればいいのであって、湿原の乾燥化の進み具合、世論の動向とのかねあいで、ダムを高くしていけば、いつしか尾瀬ヶ原すべてに満々と水を湛えまり役に立たなくなろう。



東洋の發電計画圖

るようになり、肥大し死にかけている首都圈を救う生命の水（いや、死に水）となるであります。

すでに東京電力では、その

計画を昭和23年に発表し世論を沸かせている。群馬県当局もこの東電案を裏付けるような調査研究を群大工学部の岩崎教授に委嘱している。すなわち「尾瀬ヶ原地帯を水源とする地域の電力開発に関する研究」（昭和25年10月）である。この研究論文の中では、不遜にも高さ200mのダムを建設した場合の貯水量まで計算しているのである。

9月8日には、戸倉で平野長英さん・端子さん夫妻とお会いした。育地震氏の案内を兼ねてだが、ことし76歳になられた長英さんは、病弱を押して1時間以上も尾瀬を愛する心を吐露された。「今度の紙数の最後に、長英さんの座右の銘を記す。

「美の世界に住む者は美の世界を守らねばならない。守るために、たたかわねばならない。」

提言「尾瀬の自然を守るには」

丸山正四郎

数年前から秘境といわれてゐる尾瀬を尋ねて数回、その度になる程素晴らしいと感嘆させられた。しかし同時に、自然の美しさに恵まれたこの地域が、除々に汚染され破壊されてきていると聞いて残念である。今の日本は、場当たり的開拓とかで、何處も彼処もと自然が失われてゆく。その中で、尾瀬は貴重な存在といえるのに。

先走った高度成長で物質面だけが追求され、見掛けの豊さをよそおつてはいる。こんな時代に育つた青少年から老人までが、アソン族まがいの観光客として、尾瀬を訪れてゐる。元来人間は自然の造物であるから、自然を求めるのは当然であるが、戦後の多くの人心が個人主義と勝手な自由主義に走り、対人的に無情で行儀やエチケットというものが失われてきた。骨折りや頑張りに欠けて無精になり、他人の迷惑をも顧みず廃物などをやたらと、平気で投げ

捨るようになった現状では、学的にも重要な尾瀬が心配である。そこで尾瀬を、無気力や行儀のできない者の修練をする場とすると共に自然を理解させる場にすべきだ。湿原・山林原野などで悪天候の場合は小休止ができる避難小屋をつくり、山小屋までは荷を背つて自分の脚で麓から歩く。自然を汚さない為には、途中での飲み喰い（本当は我慢すべきであるが）の空罐や屑物を持ち帰えるようにすべきである。このような行為が生じる下水道による処理の話があるようだが、却つて自然破壊を招くのはと思う。又、

自然を汚さない為には、どうか。

それに国鉄・各観光会社の、尾瀬の宣伝は認識が足りないのではないか。自然を取り扱う時、その大きさを認識しないければ、何年後かの宣伝に「かつては素晴らしかった尾瀬への旅」となるだろう。

観光資源を考えるならば、十年や二十年先も資源として残すように努力すべきだ。

入山者に対しては指導者（特に団体）を行なわせ、又、簡易トイレを個人又は団体が、携帯するように考慮すべきである。無論、自然を守る事や快適に自然に親しむために、人数を限制すべきであろう。

各入山口で、リユックの中身や所持品の登録をし、下山する際にそのカードの内容の不足分を、徴収してボランティア

護地区に指定し、これまで存続してきたそのままの姿に残そうというのである。誤つた物質文明の被害からは、国策的にも断固、あらゆる分野、地質、物理、考古の諸学者をはじめ、歴史文学者、絵画彫刻の芸術家達等により、自然本位の受入態度を執らぬ限り

守りきれるか……。

それに、年間五十万から六十万もの訪れる人々の半数が宿泊するものとして、半年の

自然も尾瀬のような自然と、山林原野・都市の自然などにわけられると思う。素朴さやある程度の不便さに尾瀬などの自然の価値があるのではなく、なにも都市近郊や観光地の様にするべきではないだろ。尤も大切なことは個人のモラルであるが、電気・瓦斯、水道等の完備の都会生活のつもりで、背広やハイヒールでハイキングが出来ますよ

いう、企業感覚の観光会社ばかりでなく、自然保護の為めのレインジャー及指導者の養成維持の為の諸費用にあてる。又、パンフレット、チラシ、スライド及び映画の制作、道路標識などの造作物の新設補修・ゴミ処理に関する費用・動植物の保護、老朽化の復元などの経費にこれをあてる。

大清水から一ノ瀬、岩清水、津奈木から鳩待峠への道路を造り、尾瀬口山荘から御池を経て沼山峠へとも造つたが、便利だとでもいうのか。マイカー族などの安い入山者達で、自然破壊へとつながると思ふ。これらの道路は廃道にして、登山道（歩く為の）にすべきである。

にも、前にのべた様におかしさを感じる。

それに国策も依然として、すべて末端の処理の考えもなく先走りで目先の物質本位に走り、ダムなどの水資源の設備には力を入れるが、節約の指導や道徳の教育を徹底普及させず、やたらと自然を破壊することしか考えないのは如何なものか。尾瀬に心や足が向くのも、自然があるからで、自然を失つたら商売にならぬことの自覚を、小屋の経営者も、関連する企業も考えて欲しい。

次の項目は是非実行したいものである。

○入山者やマイカーの規制。

○野鳥や湿原等の昆虫の為に携帯ラジオ・レコードの再生・大声の禁止。

○動植物、昆虫等の捕獲、採集、踏込等による自然破壊や木の幹への落書き、小刀による彫刻、放尿などの禁止。

○携帯トイレの持参。

○タバコ、罐・瓶・ビニールフィルムなどの空箱や屑物の持ち帰り運動。

○疲労と自然認識のため、背広・ハイヒールでの入山・泥酔者の入山禁制。

七九年事業報告

現在まで左記の活動が、七九年の事業として行なわれた。

- 一、第四回「尾瀬の夕べ」(二月二十三日、麻布公会堂。)
- 二、環境週間入山指導、ゴミ持ち帰り運動(五月二十六、二十七日、六月一、三日。沼田駅頭、山彦食堂。)
- 三、第二回養成講座。(六月二十三～二十五日。八月十九日)二十一日。以上。
- 四、団体入山指導。(七月月中旬)下旬。三团体申し込み。
- 五、絵画教室(八月二～五日。山ノ鼻にて)。以上。

なごやかなうちにその幕を閉じた。なお次号に沼田氏の講演要旨を載せる予定です。

又、尾瀬の入山シーズンの五月下旬と六月上旬の二回、沼田駅頭で、環境週間の運動を転開した。これは入山指導に基づく自然保護の訴えと、ゴミ持ち帰り運動による環境週間のPRを兼ねて行なわれたものです。駅前の山彦食堂さんの協力により店内の一部を本部として下記の方々の協力を得た。第一回(5月26・27日)内海広重・角田実・古見満雄・横山隆一・三枝欣司・原田泉・坂井崇治・市川英夫・

秋山敏子・二井光子・日大好・伊藤)・尾山美奈子

第二回(6月2・3日)岸好人・内海広重・古見満雄・角田実・高橋民・遠藤隆彦・金田和男・波戸場秀幸・中島和人・椎名宏子・熊沢瑞枝・阿部秀利・村山直樹・内山美穂・渡辺郁夫・清水謙一・鷲野郁夫・鶴見みや古・日大自然保護の会(国分・谷口・平井・久賀・辻・佐藤)沢崎英行。以上四十三名。(敬称を略す。)

「尾瀬の自然を守る会」は日本における自然保護運動の発祥地・原点である尾瀬において、自然保護を考え、学び、行動する「市民の会」であります。昭和四十六年八月尾瀬を通る国際観光ルート沼田・田島線建設反対運動の際に発足し、その後幾多の困難を経ながら会員の努力によって、運動は続けられております。

尾瀬を愛する皆さん、小さ

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文明の利器をそのまま尾瀬に持ち込もうとした事に対する、尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの提案を我々はどうのように受け止めるべきか。電線を引つけ止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を考えるじやい、カラ出張ば

入会のおすすめ

「尾瀬の自然を守る会」は日本における自然保護運動の発祥地・原点である尾瀬において、自然保護を考え、学び、行動する「市民の会」であります。昭和四十六年八月尾瀬を通る国際観光ルート沼田・田島線建設反対運動の際に発足し、その後幾多の困難を経ながら会員の努力によって、運動は続けられております。

尾瀬を愛する皆さん、小さ

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

尾瀬を愛する皆さん、小さ

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

尾瀬の復讐である。

この心やさしい尾瀬からの

提案を我々はどうのように受け

止めるべきか。電線を引つけ

止めること。浄化槽自体を温めよう、

環境庁の役人どもは一体何を

考えるとじやい、カラ出張ば

な力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

これは尾瀬からの、手痛た

いシッペ返しであろう。人間

のせいいたくなわがままに対する、そのわがままをあくまで

も押通さんと、現代科学文

明の利器をそのまま尾瀬に持

ち込もうとした事に対する、

入山指導に入った人達により各山小屋へ配られた。上毛新聞五月二十八日版には、今年もミズバショウを求めて尾瀬に入るハイカーラの第一陣が訪れた二十七日未明、沼田駅前で「ゴミ持ち帰り運動」を呼びかけた。尾瀬にゴミを残さないで美しい自然を守ろう、と尾瀬の自然を守る会（岸好人代表）会員十六名が「ゴミを必ず持ち帰ろう」と書いた大型ゴミ袋やポケット吸いが入れを、手渡し訴えていた。

昨年度より開始された「尾瀬自然保護指導員養成講座」は今年も六月二十三日／二十五日、三平峠→尾瀬沼→沼尻→十字路→八木沢→アメ平→富士見下。八月十九日／二十日、鳩待峠→山ノ鼻→龍宮小屋→十字路→温泉小屋→東電小屋→山ノ鼻→鳩待峠。という日程でおこなわれ二十四名の方々が参加された。又八月二十二日には戦場ヶ原一部の方が寄り草原化した湿原を目の当たりに見てきた。講座は昨年度の受講者も含めわき合いかいのフンイキで終了したが11月11日に最終講座がおこなわれる。受講者氏名（敬）

（略）秋山敏子・天野一男・新井義昌・安藤孔一・伊与久洋子・梅山久夫・梶山敦男・金田和男・須藤賢一・高井昭・高橋智子・武下喜一・二瓶光子・早川秀則・藤井雅之・星伸英・星野尚司・町田恵子・松本友一・水沼高志・満田伸二郎・宮内穂積・山脇茂美・西島政行。これらの活動が期待される。

新しい試みとして本年より、絵画教室がおこなわれた。自然を理解し親しむ。そのなかから自然とのよう接していけばいいかという一つの方法として絵画教室が企画された。参加者は六名と少くなかつたが、等々力徹郎画伯の指導により絵画をとおして自然とどうものへの接し方など新たな目が開けたというような感想が聞かれた。又、来年度もゼビヤつて欲しいという参加者もいた。係となつて皆様の世話を下さつた太田政明さん、指導にあたつて下さつた等々力先生御苦勞様でした。

今年も三団体の入山指導などををおこないました。尾瀬の自然の大切さと共に、自然との親しみ方など指導員が親切に指導してくれます。今年は、奈良の大谷高校、群馬朝日会、全修教という三団体からの要請により、計十四名の指導員が派遣され好評でした。連絡先は、〒一九四一〇一 東京都町田市鶴川二一十五一九ノ四TEL〇四二七一三五一六四行つただけという事が多いので



編集後記

ながい間の空白期間がありました。やつと飛行することになりました。この間にいろいろな行事がおこなわれ、多くの人が尾瀬の会に参加して下さいました。しかし編集部の人数はいかわらず少なく、てんてこまいです。どなたか編集業務を手伝つて下さる方はいませんか。状況は一刻と変化していきます。その変化に対応するためにぜひ協力を。連絡先 阿部秀利

尾瀬の自然を守る会会報	
発行者	岸好人
編集者	河内輝明
連絡先	東京都世田谷区深沢五一二一一(岸方)
電話	03-3412-3934

年月日	年月日
1年分会費1,500円を添えて申込みます。	
名前(ふりかな)	
男 女	
現住所	
〒()	
自宅電話()	
年月日生	
勤務先 電話()	



